

「ソフトの魅力 世界に」

国際オリンピック委員会（IOC）は、リオデジャネイロで3日午後（日本時間4日早朝）に開いた総会で、4年後の東京五輪で追加実施される5競技18種目を一括承認した。日本が金メダルを獲得した2008年北京大会以来、12年ぶりで野球とともに五輪の舞台に復活することが決まったソフトボールで、競技の国際的な普及活動に率先して取り組んだ元女子日本代表監督の宇津木妙子さん（63）と、東京大会が五輪初参加になる「スポーツクライミング」の国内統括競技団体、日本山岳協会の八木原国明会長（69）に、五輪への思いなどを聞いた。

東京五輪 競技追加

元代表監督 宇津木妙子さん

最後の最後で「逆転満塁本塁打」を打たれはしないかと心配していた。欧州やアフリカでの普及度の低さが北京五輪（2008年）後の競技除外理由の一つだったことで、世界的な人気を高めようと、日本が先頭で努力を続けてきた。諦めなくて本当に良かった。

悔しい思いもしたし涙も流した。09年8月の国際オリンピック委員会（IOC）理事会で、今五輪時での復活を果たせなかつたショックは、今も忘れられない。当時は普及活動

でアフリカに行っていた、セネガルで知らせを聞いた。復活を信じていたので正直、「これ以上やっても無理」と諦めかけた。

北京五輪優勝メンバーの上野由岐子（投手）や山田恵里（外野手）

は、今でも代表に入り続けている。「五輪復活のためなら何でもする」との言葉をもらい、大舞台を失った悔しさから遠ざかった間も、

ターラインに立ち、トボールを人間教育の

業との連携で、子供を通じて学んだことや、

その魅力をどう伝えていけるか。オールジャーナリストであるはすだ。

は東京五輪に限ってのことで、その後も五輪に残らないと。再びス

クでは女性のスポーツ指導を続けてきた。海外では団体競技のソフ

トボールを人間教育の

場の一つと捉え、普及活動との連携で、子供たちに伝えられることが

ちに伝えられることが多くあるはずだ。

パンで盛り上げていかなければならない。

い。アジアや欧州を回って競技用具の提供や

私もソフトボールに多くの学んだ。プレーだけではなく、競技を

に前向きな国も増えてきた。ヨルダンやイラクでは女性のスポーツとして推進していくところ

だけではなく、競技を

【聞き手・浅妻博之】



うつぎ・たえこ 1953年生まれ、埼玉県出身。ユニチカ垂井、日本代表などで内野手として活躍し、85年引退。五輪女子代表監督としては2000年シドニーワン大会で銀、04年アテネ大会は銅メダルに貢献した。現在はビックカメラ高崎のシニアアドバイザーのほか世界野球ソフトボール連盟理事、東京国際大女子ソフトボール部総監督などを務める。

「本当の勝負はこれから」と語る宇津木妙子さん＝藤野智成撮影